

平成 29 年 度

社会福祉法人 温和会

事 業 報 告 書

目 次

I	概 要	1 項
II	援 助 目 標	1~7 項
III	職 員 の 状 況	7 項
IV	事 業 実 施 内 容	
	1 事 業 の 実 施 状 況	
	(1) 行 事	8 項
	(2) 慰 問 ・ ボ ラ ン テ ィ ア	9 項
	(3) 会 議 ・ 委 員 会 等	9 項
	(4) 保 健 衛 生	9 項
	(5) 防 災 訓 練	10 項
	(6) ク ラ ブ 活 動 状 況	10 項
	2 入 所 者 の 状 況	
	(1) 要 介 護 度 別	11 項
	(2) 入 所 理 由 別	11 項
	(3) 家 族 状 況	11 項
	(4) 年 齢 階 層 別 状 況	12 項
	(5) 最 高 ・ 最 低 年 齢 及 び 平 均 年 齢	12 項
	(6) 入 所 ・ 退 所 状 況	12 項
	(7) 家 族 等 訪 問 状 況	13 項
	(8) 苦 情 ・ 要 望 受 付 状 況	13 項
	3 短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	14 項
	4 看 護 業 務 の 状 況	
	(1) 看 護 業 務 (日 常)	15 項
	(2) 外 来 通 院 状 況	16 項
	外 来 通 院 診 療 科 別	17 項
	(3) 入 院 状 況	18 項
	入 院 疾 病 別	19 項
	5 ひ や り は っ と 報 告	20~21 項
	6 職 員 研 修 講 習 受 講 実 績	22~25 項
	◎ ユ ニ ッ ト 目 標 の 反 省 と 評 価	別 紙 1
	◎ 入 所 者 嗜 好 調 査	別 紙 2

社会福祉法人温和会事業報告

I 概 要

平成 29 年度は、長期的な医療対応が必要になり退所された入所者が多く、協力病院と連携を図りながら、可能な限り施設生活が継続できるように努めてきた。短期入所利用者も高齢で重度の方の受け入れが多くなり、体調を崩すと重症化しやすく、安定的な利用が難しくなり利用率を伸ばすことができなかつた。通所事業においては、徐々に居宅介護支援事業所に周知され新規の紹介が多くなり、利用者を増加させることができた。

これまでも子育て支援を中心とした働きやすい職場環境作りに努め、さらに仕事と生活の充実のためワーク・ライフ・バランスセミナーを開催してきたが、その取り組みが評価され「青森県働きやすい職場環境作りコンテスト」では上位に入賞でき、また、「あおもり働きかた改革推進企業」としても認証されることができた。

また、朝光苑建設後 15 年が経過し、施設建物や設備の劣化や故障が生じるようになり、その都度の修理や修繕を行ってきたが、今後は適切な収支計画に基づき、計画的に改修や更新工事を行っていく必要があり次年度の事業計画に盛り込んでいた。

II 援 助 目 標

特別養護老人ホーム朝光苑

(1) ユニットケアの推進（生きがい意欲の高揚）

ユニットケアの基本理念である利用者一人ひとりの個性や生活リズムに沿ったその人らしい生活を継続するために、平成 29 年度は利用者全員について 24 時間シーートの導入に取り組んできた。入所利用者の高齢重度化が進み日々状態は変化しているため、適時サポート内容を見直し更新する等の変更を行い、情報の一元化や共有を図っていくことが求められ、次年度の課題としていた。

今年度も各ユニットでは、月に一度の料理やおやつ作り、毎日のビデオ体操、脳トレや塗り絵等のアクティビティの充実に努めた。また、食器拭きやおしぼりたたみ等の軽作業を行うことで役割意識を持って生活することができていた。

(2) 食事サービスの充実

栄養ケアマネジメントを通じて課題を検討し作成した栄養ケア計画をもとに、利用者個々の栄養状態の維持改善に努めた。言語聴覚士の評価・指導のもとに一人ひとりに適したミキサー食やソフト食、刻み食等の形態で提供を行ったことで、誤嚥等の重大な事故もなく安全に食事を摂取していただくことができた。

また、適切な食品の温度管理や加熱、調理員の衛生、体調管理により、食中毒等を出すこともなく食事を提供することができた。

(3) 早期の医療対応での安定した状態の維持

看護・介護職員間の連携を密に行い、異常を早期に発見し早めの受診に繋がったことで、入院に至っても順調に回復し退院できた利用者が多かったが、頻回な吸引や痙攣発作等により医療的管理が必要になり、療養型病棟へ転院となり施設を退所された入所者も多い一年となった。介護職員の胃瘻による経管栄養・喀痰吸引等の医療的ケアについては、ひやりはっと事例報告が少ないため、毎月開催される安全対策委員会で見直したり、定期勉強会で手技や観察点等の再確認したことでトラブルなく安全に行うことができていた。入所者の高齢重度化により、体調を崩すと重篤化し医療的ケアを要することが多い為、引き続き、関係医療機関と連携を図りながら、安定した状態が維持できるようにケアに努めていきたい。

(4) 感染症対策

定期的に委員会や研修会を開催し、職員に標準予防策の周知徹底を図るとともに、感染症の発生動向に注意し情報収集に努めた。一年を通して消毒薬の噴霧を行い、ノロウイルスやインフルエンザの流行期には十分に注意したことで、年度内には感染の発症は見られなかった。

また、昨年度に続き言語聴覚療法士（ST）や歯科からの評価・指導を受けながら口腔ケアに力を入れたことで、肺炎と診断される利用者の増加は見られなかった。

(5) 生活の中での機能訓練

利用者の重度化が進み、特に嚥下機能の低下が目立ってきている為、協力病院の言語療法士（ST）による利用者の摂食・嚥下能力の評価を受けていた。高齢者は体調を崩しやすいため、状態の変化が見られた時は早期に食事形態や介助方法、必要な口腔ケア等について指導を受け、看護・介護職員が連携し安全で適切なケアが行えるよう努めた。

(6) 施設機能による地域貢献

地域からのニーズを把握し交流を積極的に行うため、6月に11団体による地域交流懇談会を開催し、当苑の行事や入所者の状況について理解を得るとともに、地域防災協力隊による避難訓練、慰問・ボランティアについて協力をお願いした。

7月の納涼夏祭りは、入所者の高齢重度化により屋内開催としたが、横内婦人部、合子沢婦人会の皆様の手踊り等を披露していただき無事終えることができた。

また、地震および風水害等の災害時においては、9月に横内地区社会福祉協議会主催の横内地区防災訓練に参加し、福祉避難所開設運営訓練を見学することができた。訓練では、青森県防災士会青森支部の講師より避難生活をする上で必要な居住スペース・通路の確保等の実技訓練があり、福祉避難所開設時のプライバシーに配慮した居住空間作りについて学ぶことができた。

(7) 世代間交流事業の推進

毎年恒例となっている松原保育園の慰問は10月に、また、つばさ保育園の園児には12月のクリスマス会に来苑していただき、歌やお遊戯の披露、プレゼント交換、握手等で利用者は楽しいひとときを過ごすことができた。利用者は、子ども達を前にすると自然に笑みがこぼれ、明るくやさしい表情で接していた。また、8月には筒井中学校の職場体験を受け入れ、施設の役割や働いている職員の仕事内容を説明し、実際に利用者とコミュニケーションを図る時間も設け交流することができた。

(8) 朝光苑家族会「朝光会」の推進

今年度は5月20日に朝光会総会を開催し、朝光苑に対する意見や要望を話し合っていたいただき、特別な苦情や要望の申し出はなかったが、意見や感想をうかがいご家族の利用者に対する思いを知る機会となっていた。今年度は、年間行事についての説明の他に、ユニットでのレクリエーション活動や音楽療法、園芸療法等の活動状況を、写真を用いて具体的に報告していた。また、その際にはご家族の方も一緒に参加し楽しいひとときを過ごしていただけるように働きかけた。

(9) 苦情解決事業の推進

苦情相談窓口の生活相談員、介護支援専門員は、利用者やそのご家族が苦情や要望等を話しやすい環境作りに努めた。第三者委員で構成する苦情解決協議会を3回開催し意見を求めた。平成29年度に寄せられた苦情・要望は3件あり、職員の態度や言葉遣い、車椅子誘導時のスピード、洗濯後の衣類の汚染に関してご意見が寄せられたが、行った対応について第三者委員に諮り審議していただき、いずれも解決に至っている。今後も、多職種で連携を図り、日常の生活場面から利用者の要望や苦情を取り上げ、利用者の生活の質を向上させることができるように努めていきたい。

(10) サービスの自己評価の徹底

一年に一度多職種で構成されているサービス評価委員が集まり、79の評価項目に沿って話し合い、前年度からの改善状況を確認し、現状の課題について話し合うことができた。今年度は、利用者やご家族への説明や苦情対応についての定期的な実践を評価しA判定に格上げしていた。利用者から苦情が寄せられた職員の言葉遣いや態度については、限られた職員であったとしても施設全体の問題として捉え、厳しくB判定としていた。口腔ケアやリハビリテーション等の前年度から継続してB判定のままの項目については、改善を心がけ利用者の個別性、自立性に配慮した支援ができるように努めていきたい。

(1 1) 朝光苑防災管理体制の強化および地域防災協力隊との連携強化

防災管理規則に基づき、職員及び利用者による総合避難訓練と夜間想定 of 2 回の避難訓練を実施するとともに、職員に対し防災管理研修会を開催した。

また、不測の事態に備え利用者が迅速に避難できるように、緊急連絡網を使用した全職員による伝達訓練、電話が繋がりにくい場合を想定した災害伝言板 WEB171 使用訓練を実施し、職員の災害等に対する意識の向上に努めるとともに防災管理体制の強化を図った。災害時用備品については、平成 25 年度からの目標数を確保できたため、今後は消費期限等に配慮し管理していきたい。

さらに、地域防災協力隊との連携においては、9 月に地域の各関係団体および関係機関の協力を得て、朝光苑地域防災協力隊懇談会を開催した。隊員 41 名の参加をいただき、実際に自動火災通報装置を使用した招集から利用者避難誘導までの一連の流れについて実施し習熟に努めた。

(1 2) ボランティア推進事業

いつでも誰もが、得意な分野でボランティアとして活動できるように、青森市社会福祉協議会主催の「2017 体験ボランティア」等に受け入れ施設として登録し、日常生活介護、行事、園芸療法等のクラブ活動、環境整備等でボランティアの受け入れにあたってきた。今年度も、あおもり園芸療法研究会の方々に花壇の整備、ミニフラワーアレンジメント、押し葉絵作り等で来苑していただき、利用者の余暇時間の充実とともに交流の機会を持つことで生き生きとした時間を過ごすことができた。

(1 3) 職員研修の充実

新任職員研修や認知症介護実践者研修等の苑外研修会へは積極的に参加させ、専門的な知識や技術を深め、他施設職員とも交流を図ることで知見を広めることができた。特に平成 29 年度は、ユニットケアリーダー研修に参加させることができ、施設職員へ研修後の伝達研修を行うことで、ユニットケアの理念である利用者本位のサービス提供について再確認することができた。また、青森県喀痰吸引研修会に参加し、指導看護師のもと必要な知識と技術を身に付け、医療的ケアを実施できる職員を増やすことができた。

苑内研修においては、24 時間シートの作成に取り組み利用者の生活を見つめ直すことができ、また、口腔ケアやフットケア、ポジショニング、移乗介助方法等の基本的なケア技術の向上にも努めることができた。

(14) ワーク・ライフ・バランスの充実

平成29年度も、職員の生活の充実がより良い介護サービスの提供に繋がると考え、職員アンケートや反省会での意見をもとに内容を検討しながら、ワーク・ライフ・バランスセミナーを3回開催した。横内市民センター体育館を使用してのバドミントンや卓球、バスケットボール等の球技で身体を動かしたり、ヨガの講師を招いて腰痛対策ストレッチを学んだり、バーベキューで交流を図ることができた。参加した職員からも、普段話し合う機会の少ない他部署の職員とコミュニケーションの機会が持てて良かったとの声が聞かれていた。引き続き、次年度も「仕事と生活の調和」の一層の理解と職員の定着が図れるようにセミナーの充実に努めたい。

朝光苑デイサービスセンターはなおもい

(1) 利用者一人ひとりの要望や個別性を尊重したケアの推進

利用者および家族の意向を聴きながら心身の状況把握に努め、担当介護支援専門からの居宅サービス計画に基づき、残存機能の維持・向上を目標とし通所介護計画を作成しケア提供に努めてきた。また、ひと時でも楽しく過ごせるように交流の様子を見守ってきたが、利用者によって寛ぐ場所が異なり、ソファコーナーや和室でマイペースに過ごされたり、馴染みになった利用者と食卓で談話されたりする等の姿が見られたため、集団での行動を強いることなく、利用者のペースを守るように努めてきた。

(2) 生活相談の充実

利用者および家族の生活面や介護方法等についての相談に応じるようにし、独居の利用者も多いため、不安や不自由な面などないか傾聴し、内容によっては担当の介護支援専門員と連絡調整を行ってきた。引き続き、家族の介護負担の軽減を図るように努め、介護疲れの程度や状況によっては、特別養護老人ホーム朝光苑の短期入所利用も視野に入れ、朝光苑生活相談員とも連携し在宅生活を支援していく。

(3) アクティビティを中心とした機能訓練の充実

利用者個々の有する能力や可能性を尊重するように努め、起居動作や移動、排泄面等において危険がないように見守り、集団での軽体操や歩行訓練等の実施に努めた。

月間の行事計画を作成し、日々変化を持たせ参加しやすいように工夫を重ねてきた。音楽療法や計算や漢字の書き取り等の脳トレ的な活動に力を入れたり、制作や手芸等で完成させる喜びを感じていただいていた。また、園芸療法としてデイ前庭の畑に野菜栽培を行うと、毎日の成長を楽しみにされる姿が見られ、収穫時には料理作りも計画し、季節を味わうことができた。

(4) 安全で快適な入浴サービスの提供

自宅での入浴が困難になり通所利用される方が大半を占めているため、個々の身体能力や要望に応じ一般浴か特殊浴槽を選択し、危険なく入浴ができるように洗髪や洗身等の介助を行ってきた。気持ち良く入浴できるように、入浴順等を配慮していたが、今後も、利用者のさまざまな思いに注意しながら快適に入浴できるように努める。

(5) 送迎サービス

利用者個々の心身状態を考慮し、地理的状况も検討しながら送迎車両の種類や送迎ルートを設定してきた。安全第一を念頭に置き、運転担当者とは声を掛けあい、シートベルトの着用や車椅子の固定を確認し、送迎サービスを行ってきた。雨天等の天候により乗降時にステップが滑りやすくなるため、必ず付き添い支えるようにし転倒を防止してきた。引き続き、車両の定期的な点検・整備も含め、送迎サービスの安全確保に努めていく。

(6) 食事サービスの充実

利用者が増え、持病によっては熱量や塩分、生野菜や果物等の制限がある方も多くなっているが、個々に対応した食事内容や形態とすることで、事故もなく安全に食事を摂取していただくことができた。さらに、体重の増減にも注意し、食事が楽しみとなるように嗜好を把握しながら、定期的実施しているおやつや料理作り、行事食の内容についてもさらに充実させていく。

(7) 健康指導等による安定した状態の維持

利用者の健康状態把握のため、看護師によるバイタル測定や一般状態の観察を行い、発熱等の異常が感じられた時には、家族へ連絡し受診を勧める等の助言を行い、必要に応じては、水分摂取や便通コントロール等の生活指導を行ってきた。また、食前の嚥下体操の実施、食後は介助や見守りを行いながら口腔ケアを実施してきた。さらに感染症対策については、朝の到着時のうがいや手洗いの励行、インフルエンザ予防接種を勧め、職員の健康自己点検を徹底するなどの防護策に取り組んできた。

(8) 苦情解決事業の推進

利用契約時に利用者やその家族に苦情解決事業の内容を理解していただき、苦情受付担当者である生活相談員が中心となり苦情や要望を話しやすい環境作りに努めてきた。今年度は、職員の言葉遣いや態度についての苦情が寄せられ、第三者委員で構成する苦情解決協議会に経緯を説明し、解決に至っていた。利用者同士の物のやり取り等に関して、ご意見が聞かれていたため、可能な限り検討し意向に沿えるように対応に努めたい。

(9) 防災管理体制の整備

火災や地震、風水害等の非常災害時においては、利用者の安全を第一優先とし、迅速適切な対応に努めるため、年2回の避難訓練や防災訓練、防災管理研修会を実施し、防災管理体制の充実に努めていた。

(10) 職員研修の充実

特別養護老人ホーム朝光苑内で実施している認知症介護、虐待防止、感染症対策、リスクマネジメント、褥創予防等の勉強会に参加し、職員の資質向上を図っている。

また、月1回ミーティングを開催し、日々の利用者に対するケアの振り返りとともに事例検討を行ったり、行事計画を検討し、ケア内容の充実に努めていた。

送迎等の業務のため職員揃ってのミーティングの開催は時間が限られるため、記録や申し送り方法等を工夫し情報共有を行い、利用者へのケアが統一できるように努めてきた。

Ⅲ 職員の状況

[特別養護老人ホーム朝光苑]

平成30年3月31日 現在

職種	施設長	事務部長	総務課主任	事務員	事務員(パート)	運転員(パート)	管理栄養士	看護課主任 (介護支援専門員)	生活相談員	機能訓練指導員	看護師	准看護師	看護補助員(パート)	介護課主任	介護課副主任	介護福祉士	介護員	介護福祉士(パート)	介護員(パート)	合計
人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	20	2	1	3	42

[朝光苑デｲｰビスセンターはなおもい]

職種	兼はなおもい管理者 兼看師	(特養施設長兼務) 生活相談員兼	介護福祉士	生活相談員 (特養事務員兼務)	介護福祉士	介護員	機能訓練指導員 (特養准看護師兼務)	准看師 (特養准看護師兼務)	看護師(パート)	介護員(パート)	合計
人員	(1)	2	(1)	1	2	(1)	1	1	7	(3)	

※ () 兼務

IV 事業実施内容

1 事業の実施状況

項目	実施期間又は回数	事業内容		
	日付	行事名	場所	参加人員
(1) 行事	平成29年 4月12日	喫茶店	多目的ホール	30名程度
	25・26日	お花見ツアー	合浦公園	16名
	5月12日	大相撲星取り3月場所表彰式	多目的ホール	6名
	17日	喫茶店	〃	30名程度
	25日	園芸療法(花植え)	〃	20名
	6月14日	喫茶店	〃	30名程度
	28日	日帰りツアー		12名
	7月 8日	大相撲星取り5月場所表彰式	多目的ホール	6名
	11日	買い物ツアー(ひまわり・あじさい)	イトーヨーカドー	4名
	12日	喫茶店	多目的ホール	30名程度
	29日	納涼夏祭り	〃	全員参加
	8月 7日	ねぶた観覧ツアー	クラウンパレス青森	11名
	9日	喫茶店	多目的ホール	30名程度
	11日	ミナトヤ歯科先生慰問	〃	〃
	30日	そばを味わう会	〃	36名
	9月 8日	大相撲星取り7月場所表彰式	〃	6名
	13日	敬老会	〃	全員参加
	20日	園芸療法(ミニフラワーアレンジメント)	〃	19名
	10月11日	喫茶店	〃	30名程度
	18日	紅葉ツアー	萱野茶屋	9名
	20日	松原保育園慰問	多目的ホール	45名程度
	11月 3日	文化祭	〃	全員参加
	10日	大相撲星取り9場所表彰式	〃	7名
	22日	寿司を味わう会	〃	12名
	12月13日	園芸療法(水耕栽培)	〃	18名
	25日	居酒屋	〃	30名程度
	20日	クリスマス会	〃	全員参加
	29日	大相撲星取り11場所表彰式	〃	4名
	平成30年 1月10日	新春ゲーム大会	〃	35名程度
	24日	喫茶店	〃	30名程度
	2月 3日	節分	〃	40名程度
	14日	スイーツバイキング	〃	30名程度
	21日	園芸療法(押し葉絵)	〃	15名
3月 9日	大相撲星取り1場所表彰式	〃	4名	
14日	喫茶店	〃	30名程度	
20日	カラオケ大会・居酒屋	〃	35名程度	

	日付	内容	慰問者・ボランティア
(2) 招待・慰問・ボランティア	平成29年 5月24日	園芸療法(花植え)	あおもり園芸療法研究会 1名
	7月29日	納涼夏祭り	横内婦人部 5名
			合子沢婦人会 3名
			県庁ねぶた囃子方 15名
	8月11日	ミナトヤ歯科慰問(歌謡)	ミナトヤ歯科医師 1名
	9月 3日	地域防災協力隊避難訓練	地域防災協力隊 45名
	14日	敬老会	カサブランカの会 10名
	20日	園芸療法(ミニフラワーアレンジメント)	あおもり園芸療法研究会 2名
	10月20日	松原保育園慰問	松原保育園 園児 43名
	12月13日	園芸療法(水耕栽培)	あおもり園芸療法研究会 1名
	20日	クリスマス会	つばさ保育園 園児 15名
	2月21日	園芸療法(押し葉絵)	あおもり園芸療法研究会 1名
(3) 会議・理事会・評議員会等	日付	内容	
	毎週金曜日	ケアカンファレンス・入所検討会議	
	毎月 第3火曜日	献立会議・事業推進会議	
	毎月 第4水曜日	全体会議	
	毎月 1回	総括ケア部会議・勉強会	
	隔月 1回	ユニットリーダー会議・勉強会	
	4月、11月、3月	苦情解決協議会	
	7月、11月、2月	リスクマネジメント委員会	
	6月、9月、12月、3月	感染症対策委員会	
	5月、10月、1月	褥創対策委員会	
	毎月 1回	医療的ケア推進安全対策委員会	
	5月10日	自己評価会議	
	20日	家族会「朝光会」	
	6月18日	地域交流懇談会(1機関10団体)	
	5月19日	第1回 理事会、評議員会	
	6月21日	第1回 評議員会	
	6月21日	第2回 理事会	
	11月17日	第3回 理事会	
	12月 1日	第2回 評議員会	
	平成30年 3月 7日	第4回 理事会	
3月15日	第3回 評議員会		
(4) 保健衛生	平成29年11・12月 週1回(土曜日) 週1回(木曜日)	健康診断・インフルエンザ予防接種、ノロウイルス予防月間 嘱託医中道静郎(内科)による診療 協力医療機関 ミナトヤ歯科による診療	

(5) 防災訓練	平成29年 6月21日	① 総合防災避難訓練		利用者 6名参加	職員 24名参加	
	9月 3日	② 地域防災協力隊避難訓練		隊員 45名参加	職員 8名参加	
	10月11日	③ 夜間想定避難訓練		利用者 8名参加	職員 3名参加	
	12月5日	④ 緊急連絡網伝達訓練		職員 42名参加		
	平成30年 2月 1日	⑤ 災害伝言板使用訓練		職員 40名参加		
(6)機能訓練		機能回復訓練指導員による訓練		延べ 0名参加		
(7) クラブ 活動 状況	クラブ名	実施日	平成28年度		平成29年度	
			実施回数	延べ参加者	実施回数	延べ参加者
	音楽クラブ (音楽療法)	毎月1回	12回	約300名	12回	約300名
	園芸クラブ (園芸療法)	年4回	約4回	約72名	約4回	約72名
	遊ビリテーションクラブ	随時	随時	全員対象	随時	全員対象
	映画クラブ	随時	随時	全員対象	随時	全員対象
	大相撲星取りクラブ	場所毎	6回	39名	6回	33名
喫茶クラブ	月1回	12回	約360名	12回	約360名	